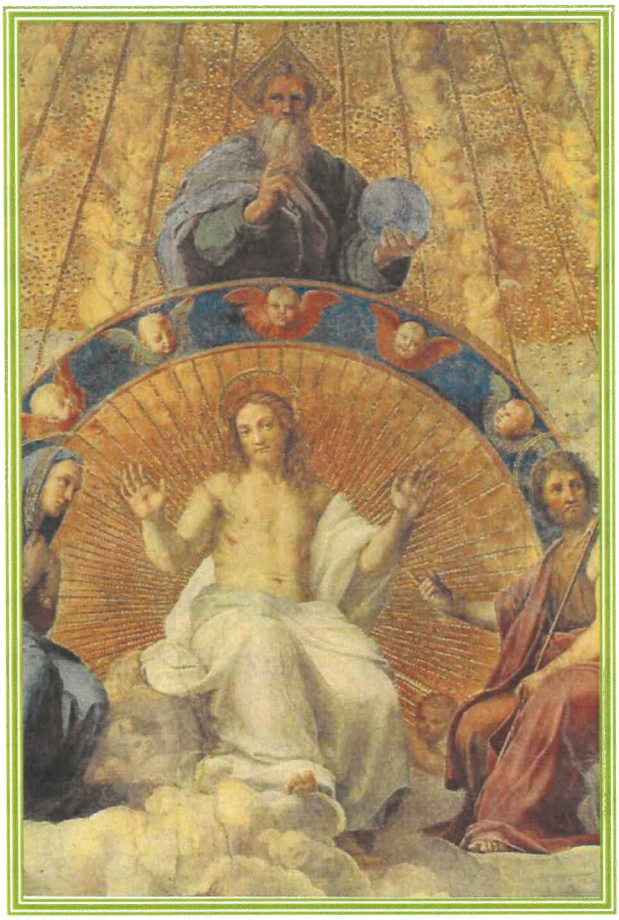
2009年（平成21）4月

カルメル 霊性センターニュース



242号

DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう
――バルバロ訳――

第一巻

第１１章　内的な平安を得る方法と霊的進歩への熱意

４　神の助け

勇士のように戦おうと努力するならば、天から主の助けが必ず来るのを見ることが出来るであろう。私達に勝利を得させるために戦いの機会を備えられるお方は、その恵みにより頼んで戦う者を助けようと待ちかまえておられるからである。

私たちが宗教上の義務を単に表面的に守って、そこから利益を得ようと思うなら、私たちの信心は長続きしないであろう。「悪の根元に斧を打ち込もう」（マタイ３･１０参照）、そうすれば欲望から解き放たれ、完全な心の平和を味わうことができる。

５　年に一つの欠点を根絶

一年に、たった一つずつの欠点でも根絶するならば、すみやかに完徳の道を進むことができるであろう。それなのに、何年も修道生活を経た今よりも、回心した当時のほうが、より善く清かったと気づくのである。私たちの熱心と進歩とは、毎日増やさなければならないはずであるが、かつての熱心さをいくぶんでも保っているのさえ、大したことのように思われる。自分自身に対して初めに逆らえば、後にはどんなことも易しく、喜んでおこなうことができる。

心　の　泉

心の泉

聖霊の友

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父　ocd　　－4－

最後まで走りぬいた勇者のように

わたしたちは英雄として

カルワリオへ

よじ登って

たどり着くのではありません

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ　ocd

四旬節もそろそろ終わりに近づいています。ご受難の週を前に新たに心を引き締め、イエスとともに「エルサレムへ上りましょう」。

3 回にわたってイエスは弟子たちにご自分の死と復活について予告しました。しかし、彼らは「これらのことが何も分からなかった」と聖書は記しています。これほど大切なことを知らされながら、「主よ、あなたが栄光を受けられたときにはわたしたちをあなたの右と左に‥‥」と自分の名誉のことを考えている浅ましさ。それが、弟子であり、わたしたち・・・。聖なる者となることさえ自分の名誉としてしまう・・・そのような弱さをもちあわせている事をあらためて自覚し、マリー・エウジェンヌ神父の言葉を思い出したい。

最後まで走りぬいた勇者のように、わたしたちは英雄としてカルワリオへよじ登ってたどり着くのではありません。
聖人は英雄ではありません。
聖人とは神と神の力に満たされた人なのです。

十字架を担ったイエスは 3 度までも倒れられました、わたしたちの弱さを背負って。十字架はいつの時代にもスキャンダルです。その十字架をわたしたちのために背負い、死に渡されたイエスの愛のうちにわたしたちは救われたことを思い起こしましょう。イエスと同じようにわたしたちも日々の十字架を背負って転んでもよいのです。イエスの慈しみの愛のまなざしと出会うなら。

霧につつまれていようと、嵐に遭おうと、あるいは柔らかい陽射しを浴びようとわたしたちは常に神の慈しみのうちにいます。ひとたび神の慈しみに捕らわれるなら、決して見放されることはありません。

よいご復活を！

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(45)

ルドルフ・デ・スーザ　OCD（カルメル会）

匂いは、私たちをある場所へとひきつける力を持っています。私たちが寂しい場所や人里離れた場所で神体験をした場合、そこで体験した匂いに親近感を抱くようになります。後に同じような状態をもう一度作り出すために、私たちは場所をその匂いと結びつけて考え始めます。けれども、その状態や匂いに気づいたとしても、私たちは決して神が現れるよう、神に強制することも望むこともできません。

聖なる場所や礼拝の場所と嗅覚の結びつきは悪くはないのですが、私たちを迷わせることがあります。私たちの中には、祈りへと自分をいざなう特別な種類の匂いを見出そうとする傾向が常にあります。神は嗅ぐことはできないということを、心にとめておくべきでしょう。したがって、祈りの内に神を見出すために、特別な種類の匂いと、神を見出すこととを結びつけることは、ほんとうの祈りを妨げるものとなり得るのです。匂いに気づくことは、よい習慣ですが、特別の匂いや芳香を神や聖人と結びつけることは、神体験や神に近づくことに対して何の助けにもならないでしょう。それゆえ、私たちは、嗅覚を暗夜の中に置くこと、すなわち匂いと特別の人間や場所と結びつけることからの離脱を学ぶ必要があります。

私たちは神を意志の力で見出さなくてはならないでしょう。神は嗅覚を通しては把握されません。神は、すべての感覚と知覚を越えています。しばしば人は、ある御像のまわりの芳香に引きつけられます。それは、よい香りによってその場の雰囲気を作り出します。これは、神への信心を低下させます。

呼吸の気づき

楽しみゆえに芳香を探し求めることは、常に私たちの気を散らすこととなります。嗅覚の能力がコントロールされるならば、私たちがなすべき仕事に集中することを助けてくれます。私たちが呼吸する空気は、鼻孔に影響します。空気が肺へ降りる場合、その動きに気づくならば、異なった感じを持つことになります。肺への空気

の動きについていき、リラックスを感じるよう訓練するならば、私たちは落ち着くようになり、安らぐことができます。このプロセスは、私たちの体験を内面化し、またこの気づきからたくさんの利益を引き出すよう助けてくれます。

呼吸の気づきは、霊への私たちの内的旅路を大いに助けてくれます。それゆえ、東洋のヨガの行者は、呼吸をとても重要視します。プラナヤーマは、祈りの生活において果たすべき大きな役割を持っています。なぜなら呼吸は、心臓の活動のように、私たちが休んでいる時でさえ続けている活動だからです。それはバランスを生み出し、私たちをリラックスさせます。エネルギーをたくわえ、脳細胞をリフレッシュします。この活動をコントロールし、気ままに働かせないならば、私たちは、祈るためによりよい準備をすることができるでしょう。

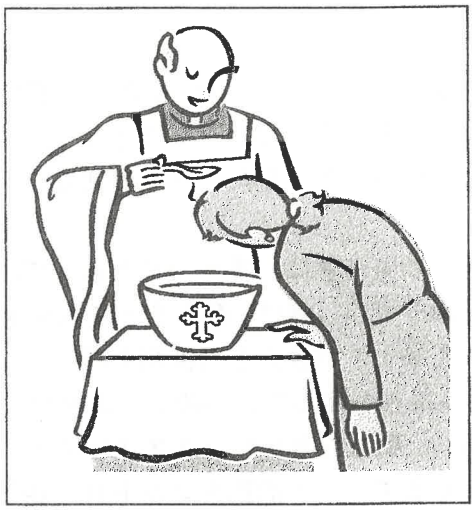
呼吸は、単に息を出したり吐いたりする問題ではありません。呼吸の行為は、食べ物からエネルギーを取り出し、それを、その時、身体が必要としていることのために使うことによって、身体のほとんどすべての細胞に関わっているのです。身体の細胞に酸素を供給し、老廃物を除去しながら、生命に関わる次の二つのシステムを結合します。すなわち、空気の流通や肺の呼吸システムと、動脈と静脈の循環システムの二つです。

呼吸は、脳のある部分によってコントロールされています。そこは、血液内の酸素と二酸化炭素の量に大変敏感な部分です。脳細胞は、呼吸する筋肉をコントロールしています。酸素と二酸化炭素のレヴェルが絶えず変化するように、呼吸の速度も、その変化に適応するように調節しています。このシステムは非常にうまく働き、空気中の二酸化炭素のレヴェルが0.3パーセントあがるだけで、呼吸の速度はすぐに二倍となります。脳はリズミカルな波動の刺激を横隔膜に、また肋骨のまわりの筋肉に送ります。これに対し、筋肉は、肋骨を上や外に引っ張り、横隔膜は平らになります。肺内でわずかな圧力によって形成されるこの空間は、外から空気が一挙に入ってくるようにし、横隔膜はリラックスし、この過程がまた繰り返されます。私たちの呼吸は、自動操縦装置のようにコントロールされています。しかし、私たちが呼吸している速度をまったくドラマチックに変えることは、可能です。たとえば、ハアハア息をきらしたり、かなり長い時間息をとめたりできます。私たちが息をとめる訓練より純粋な酸素を吸うことを優先するならば、長い時間、息をとめることができるようになるでしょう。（続く）

（九里　彰訳）

ヘンリ・ナーウェンの

旅路の糧（120）



洗礼とは、過越しの儀礼（通過儀礼）

洗礼は、一つの過越しの儀礼（通過儀礼）です。ユダヤの人々は、あの驚くべき出エジプトにおいて紅海を通って約束の地へと過ぎ越しました。イエスご自身は、受難と死を通って天の御父の家へと過ぎ越すことによって、この出エジプトを果たそうとされました。これが、洗礼です。彼は、弟子たちに次のようにたずねましたが、今も私たちにたずねています。「あなたがたは、…私が受けようとしている洗礼を受けることができるか」（マコ 10：38）。それゆえ、パウロは洗礼について語る時、それをイエスの死に入る洗礼と呼ぶのです（ロマ 6:4）。

洗礼を受けることとは、イスラエルの人々と過ぎ越すことであり、イエスと共に隷属状態から自由へ、死から新しい命へと過ぎ越すことです。それは、イエスの内に、イエスを通して、命へ入る約束なのです。

(0926)

洗礼の過越しを深めること

エウカリスティア祭儀（ミサ聖祭）の中で、またそれを通して、イエスの死と復活は、私たちにとって今ここにおいて現実のものとなります。私たちがキリストの体を食べ、キリストの血を飲むとき、私たちの死すべき体は、復活したキリストと結ばれるのです。こうして、私たちの死は、イエスの死のように、単なる破壊ではなく、新しい命への過越しとなるのです。

このように、エウカリスティアは、私たちの内で、洗礼を通してなされた過越しを深め、強めるのです。エウカリスティアは、私たちが洗礼の恵みを完全に自分のものとするようにしてくれる秘跡なのです。

(1012)

九里　彰訳

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊

枝の主日（B）

（マルコ１４：１－１５：４７）

本日、聖週間の始めにあたり、私たちは救いの神秘の一番大切な部分に一心に集中します。それは死と復活の神秘であり、屈辱と高揚の神秘であり、苦しみと栄光の神秘であり、永遠に生きるための死の神秘であり、勝利に飾られた敗北の神秘であります。エルサレム入りのときあれほど熱烈にイエスを歓迎した群衆が、日ならずしてすぐにイエスと敵対し、イエスを十字架刑につけるように、そして殺人犯のバラバを釈放するように要求したなんて、誰が考えついたでしょうか？　イエスに対する歓迎と叫び声は表面的なものでした。イエスへの支持はうすっぺらなものでした。イエスを歓迎する群衆のひとりになることも、イエスに死刑を宣告する群衆のひとりになることもたやすいことでした。初聖体を受ける人たちのひとりになることはたやすいことです。堅信式に与かる人たちのひとりになることはたやすいことです。そのうちの何人が毎日曜日のミサ中にイエスに会いに来るでしょうか？　葬儀や結婚式や洗礼式のときに感銘を与えようと派手に装う人たちのひとりになることはたやすいことです。そのうちの何人が毎日曜日のミサ中にイエスに会いに来るでしょうか？　群衆のひとりになることはたやすいことです。しかし、受難の記述中、イエスが一番必要としているときイエスのために群衆はそこにいませんでした。群衆は十字架のもとに行きませんでした。群衆はイエスを見捨てました。数人の婦人とヨハネだけが十字架のもとに行きました。

枝の主日は、私たちの希望を確かにすべきです。棕櫚の枝は、勝利と栄光のときだけでなく失敗と苦悩のときにも、私たちがイエスと喜んでいっしょに歩もうとするしるしであるべきです。何故なら、イエスの受難と復活は、生命が死に打ち勝つことを、また死が最悪であっても、生命は尚勝利を得ることを証しするからです。

（Sr. Paulina）

復活の主日　　ﾖﾊﾈ20,1-9

「週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った」（ﾖﾊﾈ20,1）。

イエスの復活の記事に最初の登場するのはマグダラのマリアです。「ヨハネによる福音」では何も言われていませんが、他の福音書を見ると「以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人」（ﾏﾙｺ16,9　参照ﾙｶ8,2）と明記されています。それにしても、マグダラのマリアは、なぜ、朝早く、まだ暗いうちに墓に行ったのでしょうか。主が復活してそこで待っておられると予知していたからでしょうか。これも、他の福音書によると、イエスの遺体に香油を塗るためとされています。しかし、墓の入り口は大きな石に塞がれていて女の手で動かせるものではありませんから、イエスの遺体に近づける可能性は皆無であったと言うのが本当でしょう。無駄を承知で、朝早く、暗いうちに墓に行ったことになります。イエスへの思い、イエスに愛され、変えられたとの感謝が、無謀とも、無駄とも思える行動にマグダラのマリアを駆り立てていたといわなければならないのです。イエスに出会う前の自分の生き方、イエスとの衝撃的な出会い、イエスとの出会い以降の自分の姿、このイエスとの過ぎ去った日々を思い巡らし、思い合わせて墓に急いだのでしょう。そして、自分自身の今の姿、イエスによって変えられて生きている今の自分、これこそが、自分自身の本当の姿、たとえ、イエスは遺体となり、もはや何もしてくださらなくても、自分の心の中に燃えているイエスへの感謝と愛は、自分が生きている限り消えることはない、こんな思いを胸に秘めて、マグダラのマリアは、墓に急いだのでしょう。

いずれにせよ、「イエスは復活した」、このことは、マリアの視野にはまだ入ってきてはいません。しっかりと握り締めているのは、病人や罪人たちに、そして自分に、「立ち上がって、行きなさい」（ﾙｶ17,19）と宣言されたイエスその方への愛と信頼だけです。実は、「立ち上がって（ｱﾅｽﾀｰｽ）」この言葉には、「復活（ｱﾅｽﾀｰｼｽ）」が潜んでいるのですが。マグダラのマリアは、イエスだけが始めてくださった「立ち上がり」、新しい生活に忠実でした。この感謝と愛が、マグダラのマリアをイエスの復活の最初の証人とするのです。翻って、わたしたちは、イエスによって新しい命に「立ち上がらせていただいた」感謝と愛のうちに生きているのでしょうか。この感謝と愛があれば、きっとわたしたちも復活の証人に変えられてゆくでしょう。　　ルカ　渡辺幹夫

復活節第二主日

“わたしの主、わたしの神よ”　（ヨハネ２０：19~31）

いつの世の人々も神に渇き、心から神を求めて生きています。絶えず日々の生活の意味を探しています。けれども科学的に物事を観るようになった多くの人々は、直ちに経験を通して得られる証拠を求めます。根拠のない主張や大それた考えを受け入れたくないのです。今日の福音にはこのような典型的な人物が登場します。その人の名前はトマスです。

トマスは彼の頑固一徹な正直さで、彼が信じ、心に描いている復活のイエスの姿を一途に求めていました。イエスが初めて弟子たちの中に立ちその姿を現されたとき、トマスはそこに居ませんでした。トマスは、すぐには弟子たちの話を信じることが出来ず、主の傷跡に自分の手を入れてみなければ信じないと主張します。その後、主がトマスに現れたとき、トマスは感極まって“わたしの主、わたしの神よ”と、彼にしか出来ない信仰告白をしました。この信仰告白は私たちキリスト者の信仰の基であり、イエスの復活のもっとも力強い証言です。

復活のイエスを信じることの出来なかったトマスの話は、現代人の心にも響きます。トマスはイエスが復活された証拠が欲しかったのです。レイモンド　ブラウン師が言っているように、トマスの話は一連の復活の主の話の後のほうにあり、信仰を具体的なものに結び合わせています。あの愛されていた弟子は、お墓に主の葬りのときの布を見つけます。マグダラのマリアは十字架にかけられたキリストの声を聞きます。恐れていた弟子たちは戸を締めた部屋の中で復活の主に出会います。次にトマスの疑いを晴らす番が来ます。しかし福音史家ヨハネとイエスは私たちをこれとは違った観点に導いていきます。何ひとつ物質的な証拠が無くても信じ、受け入れる人々をどう思いますか。ヨハネは彼の福音を読む人々が皆このようになるよう望み、願っています。イエスはこのような人々を“神の祝福と恵みの在る者”と呼ばれます。私たちは神の眼差しの中でこのような者でしょうか、それとも証拠がなければ信じることの出来ない者でしょうか？

ヨハネは断言します。「イエスがメシアであると信じる人は皆、神から生まれた者です。神から生まれた人は皆、世に打ち勝つからです。」（Ｉヨハネ５：1,4）　ヨハネは信仰と行動の一致を強調します。洗礼は神のこどもとしての最高の栄誉をもたらすものですが、それはまた、大きな責任をも要求します。私たちの信仰と価値観をしっかりと大切に守り、世に打ち勝つ者となっていく責任です。

(Sr. Paulina)

復活節第三主日　ルカ 24, 35-48

「イエスは、『ここに何か食べ物があるか』と言われた。そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた」（ルカ 24, 41-43）。

『ここに何か食べ物があるか』。わたしたちが、復活の栄光に入られたイエスに期待しているのは、このような言葉でしょうか。もっと次元の異なる崇高なお言葉をこそ期待しているのではないでしょうか。いずれにせよ、復活したイエスが亡霊ではないことの大変卑俗な証明にはなっています。復活したイエスは、本当にわたしたちと同じ身体のうちに生きておられる。しかし、わたしたちが身体の中に生きている事実とは、まったく異なる点が一つあります。イエスは、ご自分の身体を、自分のためにではなく、共に生きる人たちへの奉仕、愛の奉仕の完璧な道具、透明な表現として生きておられるのです。その頂点が十字架の死なのでしたが、復活者イエスも、この生き方を変えません。

復活の事実を弟子たちにも理解でき、信じることができる糸口、方便と言っても良いのですが、きっかけとするために、弟子たちの理解できる程度にまであわせ、イエスは、体の持っている現実のもっとも卑近な日常的な行為、「食べる」ことをして見せるのです。それは、イエスが、食べたいからではなく、弟子たちが真実の信仰に飛躍できるように、その土台を与えるためでした。イエスが食べた焼いた魚の一切れが、弟子たちの信仰を堅固にするのです。ここにイエスの弟子たちへの愛、思いやり、ここまで、ご自分を低くして、弟子たちの弱さに順応して、信仰を引き起こす心配りがあります。

「ものを食する」と言う低いところにまで身をかがめる復活者イエスに出会った弟子たちは、一つのことを学んだことでしょう。復活の命とこの地上の命の間には、深いつながりがある、この世のどんな日常的なものも、あるいは、卑俗なものも、自分中心的ではなく、真実に他者に奉仕する心の構えで生きるなら、復活の命を垣間見せるものとなると。そして、貧しい人、苦しむ人の身体の必要に敏感になるでしょう。復活への信仰は、貧しい人たちの空腹を、苦しむ人たちの身体の痛みを無視するのではなく、逆に、少しでも軽減することに力を尽くすことに導きます。こうして、わたしたちは、イエスの十字架の死と復活の証人とされてゆくのです。　　ルカ渡辺幹夫

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（24）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

十字架のヨハネの決定的な召命（1）

十字架の聖ヨハネの場合を見てみましょう。決定的な召命という言葉をどういう意味で使っているかは、後で言うことにします。まず『聖フランシスコの小さき花』にもどりましょう。その第一部には、「聖フランシスコは、説教に専念すべきか、祈りに専念すべきか、どのように迷ったか」という題の一章があります。

フランシスコに大きな迷いと戸惑いが襲った時、彼はすでに会の中に大勢の仲間を受け入れていました。「私はどうしたらよいのか。まったく一人きりになって祈りに専念すべきなのか、あるいは多少、説教に専念すべきなのか」。

彼は、相談したいと思っていた人々の祈りを通して、この問題に関する神の意志を知ろうと望みました。このため彼は、マセオ修士を呼んで、彼にこう言いました。

行って、私の代わりにクララ姉妹（聖クララのこと）へ次のように言ってください。私は説教に専念すべきなのか、ひたすら祈りに専念すべきなのか、どちらがよりよいことなのか、神がわたしに示されるよう、彼女やもっとも霊的な姉妹に熱心に祈ってほしいと。その後、同じことをシルヴェストレ修士にも言ってください。

マセオ修士はまず聖クララのもとへ行き、そのことを伝え、その後、シルヴェストレ修士のところへも行って、伝えました。シルヴェストレ修士は、少し祈った後、マセオ修士にこう言いました。

神さまはあなたがフランシスコ修士に次のように言うようおっしゃっています。「彼をこの生活に呼んだのは、彼だけのためではなく、彼が多くの霊魂の中に実を結び、彼によって多くの人が救われるためである」と。　（続く）

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

20. 福者 三位一体のエリザベット（1880－1906）── その4

エリザベット・カテーは、1880 年フランスのアヴォールに生まれた。軍人であった父は、彼女が7歳の時に亡くなった。妹のギットとは大変仲がよく、母は二人にとって大変親しい存在であった。7 歳の時、エリザベットは修道女になりたいと友人に打ち明けている。早熟な子どもで、かんしゃくを起こしやすい性質であったが、初聖体を受けてからは、非常に穏やかになった。名ピアニストでもあり、また、中流階級であった彼女の家族は、パーティーや社交的な行事にもよく参加した。1891 年に初聖体を受けたときから、彼女は「神に生涯を献げ、神の偉大な愛にいくらかなりともお返ししたい」と望むようになり、13 歳のとき、貞潔の誓願を立て、イエスに身を捧げた。エリザベットの心はイエスにとらえられ、彼のことしか考えられなかった。21 歳の誕生日に、家から近いディジョンのカルメル会に入会する母の許しを得ることができた。エリザベットは手紙の中で、カルメル会にいることの深い喜びを度々表している。あらゆるものが、彼女を三位一体へと導いた。彼女は、無条件に「三位であるお方」に身をささげ、神はそれをお受けになったのである。カルメル入会後間もなく、エリザベットは病気になり、胃疾患（現在では、アジソン病であったと考えられている）のため 5 年間苦しむこととなる。彼女の苦しみは、霊的にも身体的にも激しいものであったが、この苦しみによって彼女のイエスに対する愛と、彼にこの苦しみを捧げたいという望みは増していった。

彼女が書き残したものの中には、聖パウロの言葉が多く見られる。自分の召命について、彼女は「花嫁であること、カルメルの花嫁であること」とは、エリヤの燃える心と聖テレジアの刺し貫かれた心を持つこと、「神のご光栄のために熱情を傾けている」がゆえに神の「まことの花嫁」であることであると語っている。福者三位一体のエリザベットは、祈りの真の深みを生きた神秘家であり、イエスを愛しぬいた愛人であり、カルメルにおいても家庭においても、姉妹たちにとって真の友人であった。彼女は自分のことを"Laudem Gloriae(栄光の賛美)"であると言っていた。1906 年 11 月 9 日に帰天。最後のことばは、「私は、光、愛、いのちへ行きます」であった。

福者 三位一体のエリザベット

—— 祈り ——

私は地上で私の天国を見出したように思います。天国とは神であり、神は私の霊魂のうちにおられますから。

このことを理解した日から、私にはすべてのことがはっきりしました。この秘密を私の愛する方々にもそっとお教えしたいと願っています。それは、彼らも、すべてのことを通して、いつも神に堅く結びつくことができるようにするためです。

（1902年6月、手紙122）

“Coeli enarrant gloriam Dei（天は神の栄光を語り）.” これが、天国が告げていることです。つまり、神の栄光のことです。

私の霊魂は天国であり、そこで、私は天のエルサレムを待ちながら生きています。この天国も、永遠なるお方の栄光を歌わなければなりません。他でもない、永遠なるお方の栄光を。

「昼は昼に語り伝える」。神の光のすべて、神が私の霊魂に伝えてくださるすべてのことは、この昼なのです。それは、神の栄光のメッセージを「昼に語り伝える」昼です。「主の戒めは清らかで、目に光を与える」と、詩編作者は歌います。ですから、神のご意思の一つ一つ、神が内的にお命じになる一つ一つのことに対して忠実であることによって、私は神の光のうちに生きることができるのです。それは、神の栄光を語り伝えるメッセージでもあります。「あなたを見ておられる主は、輝きに満ちておられる」と、預言者は感嘆の叫びをあげます。他の全てのことから霊魂を引き離す単純さのうちに、その内的なまなざしの深みによって、あらゆることを通して神を観想する霊魂は、「輝きに満ちた」霊魂です。それは、「神の栄光のメッセージを昼に語り伝える昼」なのです。

（『最後の黙想』、７日目）

王なる預言者の歌った「神の深み」に到達し、そこに住む霊魂は、純一の存在そのものであるお方に自分をどこか似たものとする清いまなざしをもって、「神のうちに、神と共に、神によって、神のために」すべてを行うようになります。このような霊魂は、その行いの一つ一つによって、その動きと望みのすべてによって——どのような平凡なものであったとしても——、愛するお方に、より深く「根ざしている」のです。その霊魂の中のすべてが、至聖なる神を賛えます。それは、言わば、永遠のサンクトゥスであり、絶え間ない栄光の賛美なのです！

（『最後の黙想』、８日目）

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites（Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL http://www.ignatius.com）の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

（注）タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる（Ｉ列 17:3-4）」ということばに由来しています。

（奈良カルメル会訳・編）

変身しつつある多摩川とその周辺

多摩川といえば、私は２年前にもこの川について書いたことがありました。今回再びどうして書きたくなったのかといいますと、“川が次第に埋め立てられ、人間生存のために自然破壊が進み、そのために必然的に犠牲となる　かもめ　とか、他の水鳥がいつの間にか姿を隠してしまい、かつての風情ある“多摩川”は何処かに流れていってしまったからなのです。このような川を目の当たりに見ますと、“日頃感じていることを書いてみたい”と思ったのでペンを取った次第です。(私は週２日、仕事のためにここを往復するので、毎週４回はこの光景をみています。)

普通なら、私はある事柄について新聞記事と写真が載ったとしても、これ程執着して心が囚われることはないはずなのに、多摩川となると、どうしてこんなに心揺さぶられるのだろう、そして私と同じに見える同調者を探そうなどと考えるようになるのかな、と思うのです。私の目には、河自身が“近代化という波に乗せられ、自分自身にとっては生命線ともいうべき波、それさえも奪われ流されて、こんなにやせ細ってきているのだ”と写るのです。

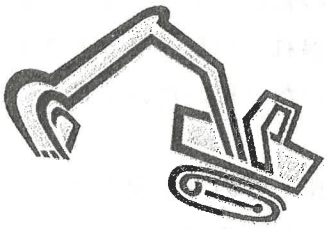
私には、河がまるで断末魔の悲鳴を上げているようにさえ見えます。確かな情報ではないにせよ、聞くところによれば、“河岸にショッピングセンターのようなものも出来るとか…”それがたとえ確かでなかったとしても、従来の情緒とか風情を兼ね備えた多摩川は、もう戻ってはこないでしょう。現代においての“便利と即効性”の観点からするならば、情緒も何もかもすべてふみにじられてしまうのだ　ということを、しみじみ感じさせられてしまいます。１週２日“つくし野天使幼稚園”の仕事のために、ここを４回も往復しますと、その都度河川敷にトラクターが入って、土手や河岸に繁茂していた青草を次々となぎ倒して赤土を露出させ、今まで美しかった河岸を、いつの間にか醜いはげ　のからだに変形させてしまっています。そして今まで、水面を自由に飛び回っていた水鳥は、いつの間にか全部姿を消してしまったのです。

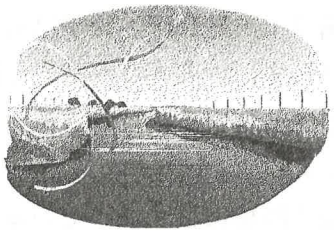
私が通勤の時に、電車の鉄橋の向こう岸を眺めていると、靄を通してみえるのは、独りのお爺さんが釣り糸をたらして、気長に釣りをしている光景なのです。毎週この景色を見る　ということは、きっとどんな川魚かが釣れることなのでしょう。それなら、まだ多少の川魚は生息しているのかな？？これ位が“急ぎの世界に住む人”の心をなごませてくれるものでしょうか？？

人間のすることには素晴らしいことが沢山あります。ことに現代では、その昔、とても考えられなかった宇宙開発も進歩して、月面着陸や、その映像を地球に送信することとか、少し以前までは考えられなかった、科学的発展が次々実現してくるようになりました。科学者の頭脳の良さ、学問への信頼、勇気と沈着さ　などなど……素晴らしい人間が続出する時代になってきたのです。

あの旧約聖書の始めにあるように、神様が、すべての創造をなし遂げられてから“好しと見給えり”と仰せられたお言葉は、神さまと人間が一つになって協力し、住み易い世界の創造を、現代に至るまで、否、世の終わりまでもち続けることではないのだろうか　としみじみ思うようなこの頃になってきた私です。

お告げのフランシスコ姉妹会　　Sr. 熊田　　照子





「奇蹟」　　石原淳子

日常生活の隙間というのでしょうか、何の所為もなくただただぼんやりとしている時などに、私は、丁度童話を読む時のような、幸せなそれでいてワクワクする気持ちをもって或ることを思い描きます。

それは、もし私が2000年前に生きていたとして、・・・時間も場所もナザレのイエズスと同じであったとして、・・・この目で彼の姿を見かけ、この耳に彼の声が聞こえ、更にはこの手で彼の衣の房に触ることさえ出来たとしたら・・・・私には一体何が起こるのだろうと思いめぐらすのです。

平素は、このように「もしそうであったとしたら・・・」と考えたりすることは、たとえどのようなことであっても絶対にあり得ないことなのですが、このナザレのイエズスと共にあるということだけは、唯一の例外として幾度となく心の中に思い描いてみるのです。

地球という一つの惑星に存在することを同じくする。太陽の光を同じように身に受け、月の光に同じようにしてものを思い、同じ水場から同じように水を汲み、朝日を迎えて腕を伸ばし、夕暮れの茜雲に頬を染め、人と共に語り合い人と共に笑い合って、苦楽を共に生活を営んでいる。

そして或る日、或る時、大工の息子イエズスの噂を耳にする。

「ねぇ　大工さんとこのお兄さんが、何やら話をしていて、それを聞きに人が集まっているらしい。」　好奇心というか、はたまた物見高い野次馬というか私もまた一度は誘い合って人とそこへ出かけていくに違いない。

その頃の私といえば、きっと若々しく健康な心身を持ち、正義感強く、言ってみれば優れたパリサイびとであったでしょう。　魂の深いどこかでは「愛」を求めていたと思いたいです。

大工の息子その人を取り巻いている輪の中を見れば、日頃は身辺に近しくない人々・・むしろどちらかというと関わらずにいる人々が前列に陣取り、それはそれは熱心に一途にその人の顔を見上げ、耳をその言葉に傾けています。

大工の息子その人は、不思議な雰囲気を身にまとっていて、これまで誰も言わなかったこと、信じ難いことを、力強く群集に語りかけている。　そのまなざしは鋭くやわらかく厳しくあたたかく・・　誰かが言っていたように「直に心の底に届いて、身も心もふるえてしまう」　なのです。

ヨセフやマリアに久しく会っていないけれど、木片で遊んでいたあの小さな男の子が何時の間にこんな不思議な青年に育ったのか。

その人が歩き出すと、その場にいる人々もまるで追っかけのように、ゾロゾロとついて歩き出します。
私は、外に遊ぶ子ども達を家の中に呼び入れて戸をピシャッと閉めて、「大工さんとこのお兄さんについて行ってはだめよ」ときつくいい聞かせる。

しかし、夜半ふと目が覚める時などに、きまって心の中に浮かんでくるものはあの大工の息子の姿です。耳にしたその人の言葉です。　何故だろう、何故こんなにも気になるのだ？　あの自信に満ちた普通ではない変人が一体なんだというのだ。私は何故こんなにも気にするのだろう。
思いは募り、やがてはかすかな不安さえが忍び寄る。　私のこのかけがえのない今の安定を脅かされるかの感じを覚えます。　あの大工の息子によって私は根こそぎ壊されてしまうのではないかという予感というのでしょうか。
「新生」という言葉を私は知らない。

こうして無我夢中で想像するイエズスとの出会いは、童話のように、はたまた妄想のように、楽しく果てなく続くのですが、しかし、その後2000年を経て遭遇するイエズスキリストは、決して想像でなく妄想でなく紛れもない確かな現実のお方であるのです。
2000年の時間、空間、あらゆる全ての限りを解かれて、魂が遭遇する必然であり、主体的な全身全霊の決断であり、存在の根底からの回心です。

ただひとつ、この2000年の隔たりに、懸け橋のように思いつつ感動するのは今日ここを照らす太陽が、2000年前のあの日の太陽であり、今夜仰ぐこの月が2000年前のあの夜の月であるという事実です。　雄大な幸福に満ちたイエズスとの共有体験です。　そして、もう一つの大切な懸け橋と感じているのは、2000年という絶大な時間にかけられている、大工の息子 ナザレのイエズス、わが主キリストへの愛と希望と信仰が、小さな人々によって綿綿と累々と重なり続けている事実です。　「新生」を得て、キリストの命を生きる人々が今年も来年も、次も次もずっとずっと続いていくこと、このことこそが私が唯一「奇蹟」と呼んでいる出来事に他なりません。

いのちの言葉　3月

あなたがたが、わたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。　（ヨハネ16・23）

この世には、次のような最も矛盾した現象があると言えます。

道を見失い、何かを探し求める人々がおり、彼らは、人生では避けられぬ試練の中で、助けを求めて苦しみあえぎ、親のない子のような孤独を感じています。そして一方では、すべての人の父である神が、おられるのです。神はその全能の力により、ご自分の子供たちの望みと必要を満たすことだけを望んでおられます。

人間が「満たされることを求める空虚」だとするなら、神は、「空虚を求め、それを満たそうとする」お方です。しかし両者は、出会うことがありません。　人間に与えられた自由は、このような悲しい状態をも生みだすのです。

イエスの言葉を聞いてみましょう。

あなたがたが、わたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。

これはイエスが、福音の中で折りに触れて語られた、たしかな約束の言葉の一つです。イエスは、こうした言葉を通して、私たちが自分に必要なものをどうやって得ればよいのかを、色々な面を強調して、教えてくださいました。

このような言葉を語れるのは、神だけでしょう。神の力には限界がありません。地上の生活における恵み、霊的な恵み、可能なことや不可能に思えることも含め、あらゆる恵みが、神のみ手の内にあります。

ですから、どうぞ耳を傾けてください。

イエスは、私たちがどんな姿勢で御父に願うべきかを教えてくださり、「私の名によって」願いなさい、と言われました。

もし私たちにわずかでも信仰があるなら、この「私の名によって」というイエスの言葉は、前進するための力強い助けとなるでしょう。

この地上で実際に生活されたイエスは、私たち人間が無数の必要性を抱えているのをご存じで、私たちに憐れみをかけてくださいます。そして祈る方法も教えてくださり、ご自身が私たちの間に立たれ、「私の名によって、父のもとに行き、これもあれも皆、父に願いなさい」と私たちに言ってくださるかのようです。イエスは、御父がご自分にはイヤと言われないのをご存じです。イエスは御父の子、神でおられるからです。

ですから私たちは、自分の名によってではなく、キリストの名によって、御父のもとに行きます。「使いの者は、責任を問われない」といった格言もありますが、私たちはイエスの名によって御父のもとに行く時、イエスの使いの役を果たすに過ぎません。そして、イエスと御父の間でなら、物事はスイスイとすすめられるでしょう。

このような態度で祈った多くのキリスト者が、自分たちの受けた無数の恵みを証しできるでしょう。父である神が日々彼らに心をかけ、愛情を注いでおられることは、彼らが受け取る恵みによって、示されます。

あなたがたが、わたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。

「私はキリストの名によって願ったが、得られなかった」と言われる方があるかもしれません。

それも、ありえます。イエスは福音の他の箇所でも「願いなさい」と勧め、それに

ついて説明されましたが、そのような箇所が見落とされてはいないでしょうか。

たとえばイエスは、ご自分の内に「とどまる」人は恵みを得る、と言われました。これは、「イエスのみ旨の内に」とどまることを意味します。

もしかしたらあなたは、自分に対する神のご計画にはないことを、願っておられるのかもしれません。それは、神の目から見れば、あなたの地上の生活、また永遠の命のために、役立たぬもの、かえって害になるものかもしれません。

そうした場合、父なる神があなたの願いをかなえるなら、あなたをあざむくことになるでしょう。神は、決してそうはなさいません。

ですから、祈る前に神と相談し、「お父さん、あなたがこれを良いと思われるならば、私はイエスの名によって、願います」と言った方がいいでしょう。

そして、あなたの願う恵みが、神の愛のご計画に沿うものならば、次のみ言葉が実現するでしょう。

あなたがたが、わたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。

また人は、恵みを祈り求めながらも、自分の生活を神のお望みとまったく一致させない場合もありえます。

その場合、神が願いをかなえてくださるのは正しいことでしょうか。神は、一つの恵みだけでなく、私たちのために、完全な幸福をお望みです。この幸福は、私たちが神の掟、そのみ言葉を生きようと努める時に、得られるものです。み言葉について考えたり、それを黙想するだけでは足りず、実践することが必要です。

私たちがこのようにするなら、すべてを得ることができるでしょう。

では結論として、お尋ねしましょう。あなたは恵みを得たいと思われますか。だとすれば、まず神のみ旨に注意を払い、神の掟に従う決心をした上で、キリストの名によって何でも願ってください。

神は喜んで、恵みを与えてくださいます。残念なことに、神のみ手を閉じてしまっているのは、ほとんどの場合、私たち人間の方なのです。

キアラ・ルービック

＊フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。2008年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのち言葉は、1978年11月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

ある日、一人の友人から電話がありました。「知人のお嬢さんに赤ちゃんができ、彼女は生みたいのだけれど、相手の男性やその家族は、中絶するようにと言っている。この命が助かるよう、祈ってほしい」とのことでした。ちょうどその時、「いのちの言葉」を共に生きている友人たちが一緒にいたので、このことを伝え、「すべての人のお父さんである神様、イエス様の御名によって、祈ります。どうぞあなたがこの状況に救いの手をさしのべてください」と、皆で心を一つにして祈りました。翌日、友人からＦＡＸが届きました。「女性の相手の人や家族も考えを変え、赤ちゃんを産む方向になっている。お祈りありがとう」と。御父の働きに本当に手で触れるような経験で、今も忘れることができません。（Ｆ）

連絡先
フォコラーレ：
03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
ホームページ：
http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito

「キリスト教との最初の出会い」6

「幼い日の出会い」

森脇和子

私は京都に生まれ育ちましたせいでしょうか、幼い時から、仏教と言うよりも何となく、お寺と近しく生活していたように思います。そして近くのお寺の日曜学校に通うほどでもなく行っておりました。小学校の二年生の頃だったと思います、ある日お数珠を手に仏壇にむかって掌を合わせ、静かに座って、「ふかきみのりにあいまつる、みのさちなににたとうべき、ひたすらみちをおしひらき、まことのみちにすすみゆかむ」と唄っていると、とても落着いて子供ながらしあわせな気分になりました。その時の心のしずけさを今もはっきりと思い出すことが出来ます。後になってわかったことですが、その頃我が家では家督の相続問題がこじれ、両親は大変な悩みの中にいて、母は今で言う「欝病」でしょうか療養中で、家の中のことは家政婦さんにきり盛りして貰っていました。子供ごころにきっとさみしかったのでしょう。

女学校は府立で、今で言う公立校、でもお一人、級（クラス）に熱心なカトリックの家庭の方がいらっしゃいました。私が洗礼のめぐみを頂きましたのは一九四二年のクリスマスで、アメリカ人の宣教師の方々はとうに本国へ送還、戦争の真最中でしたが、その時どんなに嬉しかったか、涙に濡れた洗礼式でした、十八才になったばかりでした。長い長いめぐみの年月でした今八十四才になって、カルメル会在俗者会にまで招いて頂き、誓願の日から四十年が過ぎました。今もロザリオを手に祈ること、そして念祷に招かれています。

東　京

カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：闇に光を

―現代社会に芽生える新しい神との出会い―

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩７分）
　　世田谷区上野毛２－１４－２５　カルメル修道会（TEL　03-3704-2171）
日時：下記の各日曜日　午後二時半開始　入場無料（講話の後、主日のミサ）

了　３月１日（日）　大瀬高司（カルメル修道会司祭）
「教会二千年余の歴史を鑑み
個々の人間と社会に本質と本来指向を啓(ひら)いてきた教会」

了　３月８日（日）　渡辺幹夫（カルメル修道会司祭）
第二ヴァチカン公会議「厚い黒雲の中にも、時のしるしを読み取る」

了　３月１５日（日）　堤　邑江（カルメル在俗者会員）
「家庭と若者、生活問題の中での神との出会い」

了　３月２２日（日）　中川博道（カルメル修道会司祭）
「わたしはこの目であなたの救いを見たからです
――高齢期を生きる光を探して――」

３月２９日（日）　チェレスティーノ・カヴァーニャ（東京教区司祭）
「日本の教会の新しさ」

東　京

上野毛霊性センター　'09年4月～'10年3月

黙想企画　＊＊　聖テレジア修道院（黙想）＊＊

1．一泊聖書深読（毎回土曜日　夕食～日曜日１６時）　　大瀬高司神父

③　　５月１６日～１７日
④　　７月２５日～２６日
⑤　　９月　５日～　６日
⑥　　１１月２８日～２９日
⑦　２０１０/　１月２３日～２４日
※①、②終了

2．奉献生活者のための黙想会

A　８月１０日（月）夕食～　８月１９日（水）朝　中川博道神父
B　８月２２日（土）夕食～　８月３１日（月）朝　松田浩一神父
C　１１月　９日（月）夕食～１１月１８日（水）　朝　松田浩一神父
D　１２月２６日（土）夕食～'１０/１月４日（月）朝　中川博道神父

3．木曜黙想会　（毎回木曜日１０時～１６時）
年間共通テーマ《祈りを深める》

５月２８日	キリスト者の日々の祈り	松田浩一神父
７月　９日	イエスは祈られた	中川博道神父
９月１０日	苦しみの中の祈り	今泉　健神父
１１月２６日	ミサの祈り	今泉　健神父
2010/　１月２８日	主の祈り	松田浩一神父

4．金曜黙想会　カルメルの聖人（毎回金曜日１０時～１６時）

４月１７日	御復活のラウレンシオ	中川博道神父
６月１９日	カルメル会の聖人達とイエスのみ心	松田浩一神父
１０月　９日	アビラの聖テレジア	今泉健神父
１２月１１日	十字架の聖ヨハネ	ベルナルド神父

5.「社会人のための心の休息」―日常のキリスト教霊性を求めて―

(毎回金曜日　20時～　土曜日　15時)　　新しい企画

松田浩一神父

①		4月17日（金）～18日（土）
②		5月　8日（金）～　9日（土）
③		6月19日（金）～20日（土）
④		9月11日（金）～12日（土）
⑤		10月23日（金）～24日（土）
⑥		11月　6日（金）～　7日（土）
⑦	2010/	1月29日（金）～30日（土）
⑧		2月26日（金）～27日（土）

尚、この企画は社会人（働いている人）の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6.青年黙想会（男女）　中川博道神父・松田浩一神父・神学生

5月29日（金）～31日（日）　　17時受付

11月21日（土）～23日（月）　　16時受付

7.召命黙想会（男女）　中川博道神父・松田浩一神父・神学生

7月4日（土）～　5日（日）　　15時受付

8.祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

4月9日（木）～12日（日）　《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

12月24日（木）～25日（金）《講話なし、夕食なし》

9.特別黙想会　　伊従信子NDV

5月22日（金）20時～24日（日）16時（22日は夕食を済ませてご参加ください）

テーマ：「聖霊を友に」

10月10日（土）20時～12日（月）16時（10日は夕食を済ませてご参加ください）

テーマ：「さらに固く信じさせてください」

東　京

１０.待降節黙想会

１２月４日（金）２０時～６日（日）１６時（4日は夕食を済ませてご参加ください）

指導：カルメル会士

幼いマリア像（聖テレジア修道院・黙想）

電話でのお問い合わせは午前９時から午後４時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんのでなるべくFAX・はがき・Ｅメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03－5706－7355
FAX　03－3704－1764
e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

東　京

✝

「カルメルの霊性に親しむ」

―カルメルの霊性をとおして イエスとの出会いの道を探します―

担当：中川 博道（カルメル修道会）

＊どなたでも いつからでもご参加ください＊

2009年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日） ≪10:30～12:00≫	夜のクラス（金曜日） ≪19:15～20:45≫
了 1月20日	了 1月23日
了 2月17日	了 2月20日
了 3月17日	黙想会の為、3月の勉強会はございません ~~下記の案内をご覧ください~~
4月21日	4月24日
5月19日	5月22日
6月23日	6月26日
7月21日	7月24日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

東京

木曜 黙想会 一般黙想

2009年 3月12日　テーマ：「共に苦しむ神」 了

7月 9日　テーマ：「イエスは祈られた」

金曜 黙想会 カルメルの聖人

2009年 4月17日　テーマ：「御復活のラウレンシオ」

2010年 2月12日　テーマ：「聖エリア」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

対象：どなたでも

時間：10時～16時

指導：中川博道師

費用：3,500円

場所：聖テレジア修道院（黙想）

お申込みは下記＜聖テレジア修道院（黙想）＞へ お願いいたします

158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25
TEL：03-5706-7355
FAX：03-3704-1764

東 京

青年黙想会

やさしい心の友、聖霊来てください！

5月31日（日）に教会は聖霊降臨の大祭日を迎えますが、その典礼の中に『聖霊の祈り』があります。「聖霊来てください。・・・やさしい心の友、・・・」。聖霊降臨の日に異なった言語、異なった考えを持った人々に、神の救いの言葉によって、お互いを結び合わせた神です。いっしょに聖霊を祈り求めるひと時をもちませんか。

2009年5月29日（金曜日）18時～
5月31日（日曜日）16時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

対象：青年男女（35歳まで）

指導：中川博道　神父　松田浩一　神父

会費：一般　10,000円　　学生　5,000円

持参するもの：ノート、筆記、パジャマ、洗面用具、そのほか各自必要な物

定員：　20名

参加をご希望の方は、ハガキ・FAX・E-mailのいずれかで住所・氏名・年齢・電話番号・所属教会名をご記入いただき5月23日（土）までに、下記宛にお申込みください（必着）

（お問合せ・お申込み先）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2－14－25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Fax　03－3704－1764

E-mail：　mokusou@carmel-monastry.jp

東　京

『社会人（働いている人）のための心の休息』

―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

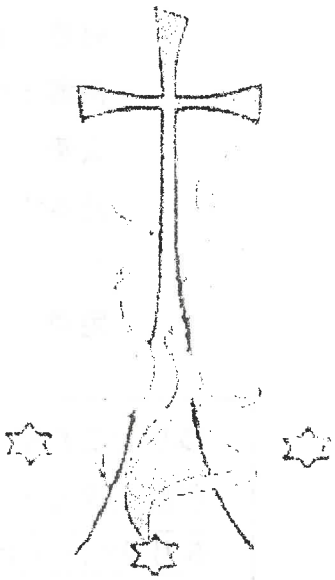
- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（霊的理解）を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴を行います。
- メソードの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】　6人

【開催日】

① 2009年　4月17日（金）～18日（土）
② 5月 8日（金）～ 9日（土）
③ 6月19日（金）～20日（土）
④ 9月11日（金）～12日（土）
⑤ 10月23日（金）～24日（土）
⑥ 11月 6日（金）～ 7日（土）
⑦ 2010年　1月29日（金）～30日（土）
⑧ 2月26日（金）～27日（土）

（毎回金曜日 20時（夕食なし）～土曜日 15時）



【参加費】　各回5,000円

【霊的同伴】松田浩一神父

【申込み方法】参加希望者は、前日の木曜日16:45迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
Tel 03－5706－7355、 Fax 03－3704－1764
E-Mail:mokusou@carmel-monastery.jp

東　京

C.Y.C.（カルメル・ユース・クラブ）

若者の集い

カルメルの霊性（スピリチュアリティー）の中で
祈りと分かち合いのひと時をすごしてみませんか・・・

日　　時：　２００９年　了~~2月14日（土）~~、~~2月28日（土）~~了
了~~3月14日（土）~~、3月28日（土）

午後7時 ～ 9時15分（9時からカルメル会士とともに「寝る前の祈り」）

対　　象：　35歳までの 青年男女

内　　容：　「聖書」「カルメルの聖人の著作」等の分かち合い、祈り。

場　　所：　上野毛教会 信徒会館ホール 東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩7分
（世田谷区上野毛2－14－25）

※参加の申込みは不要です。お問合せに関しましては、下記までお願いいたします。
※カルメル会の各種ご案内は、ホームページにて。　http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/

男子跣足カルメル修道会　上野毛修道院（松田浩一神父）
158-0093　東京都世田谷区上野毛2－14－25
[E-mail]　tokyo@carmel-monastery.jp
[Fax] 03-3704-1764　　[Tel] 03-3704-2171

東　京

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。　皆様のご参加をお待ちしています。

＊＊＊＊＊

＊　日時：2009年5月16日（土）18時～17日（日）16時

＊　場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

＊　指導：大瀬高司師（カルメル会司祭）

＊　会費：￥7000

＊　持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著　￥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。

お問合せ・お申込は、TEL.　FAX、ハガキにてお願いします。
〒158-0093　世田谷区上野毛　2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
Tel.03－5706－7355
Fax.03－3704－1764

東京

― 特別黙想会 ―

≪わたしは神をみたい≫

聖霊を友に

2009年5月22日（金）20時～24日（日）15時

わたしは父が約束されたものをあなたがたに送る。
高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。
（ルカ24・49）

聖霊は　わたしの友、
　わたしの光、わたしの師
使徒として生きるわたしたちは
　聖霊とより親しく
　　歩まなければなりません

―幼きイエスのマリー・エウジェンヌ、ocd―

- 指　導：　伊従　信子　（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品：　新約聖書、小冊子「聖霊を友に」（黙想の家で購入できます）
　　筆記用具、パジャマ
- 参加費：　¥12000
- 場　所：　カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
　　158－0091　東京都世田谷区上野毛2・14・25　℡ 03-5706-7355

お申込　Tel03-5706-7355　FAX・03-3704-1764　Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

「聖週間、祭日のミサにあずかるために」

個人黙想ご案内

聖週間の典礼、復活の主日のミサにあずかるため、黙想の家で静修の一時をお過ごしになりませんか。

２００９年４月　９日（木）夕食～１２日(日)朝食

＊　講話は、ありません。各人のテーマによる黙想
　チェック イン　：午後３時から入室可。
　チェックアウト：午前10時（復活の主日）

＊　費用：　１泊　￥５０００　（３食付・１泊から参加可）

＊　お問合せ、お申込み：　Tel.03-5706-7355・Fax.03-3704-1764

上野毛・聖テレジア修道院（黙想）

２００９年 聖週間 ご案内

4月　5日(日)　受難の主日(枝の主日)

4月日　9(木)　聖木曜日(主の晩餐)

典礼　19:00～

4月10日(金)　聖金曜日(主の受難)　大斎、小斎

十字架の道行き15:00～

典礼　19:00～(十字架の崇敬と称賛)

4月11日(土)　聖土曜日

典礼　19:00～　洗礼式

4月12日(日)　復活の主日

荘厳ミサ　10:30～　ミサ後祝会　・たまごの祝別(各ミサ後)

‘09年4月～‘09年12月まで　黙想会案内　（宇治カルメル会）

＊＊宇治聖テレジア修道院（黙想）＊＊

1．聖書深読

一泊二日（午後5時～午後4時）

5月　9日（土）～10日（日）	新井延和神父
7月　4日（土）～　5日（日）	九里彰神父
9月　5日（土）～　6日（日）	新井延和神父
11月14日（土）～15日（日）	渡辺幹夫神父

1日（午前10時から午後4時）

4月18日（土）	渡辺幹夫神父
6月13日（土）	新井延和神父
10月31日（土）	九里彰神父
12月12日（土）	新井延和神父

2.水曜黙想（午前10時～午後4時）

4月22日	復　活	渡辺幹夫神父
5月27日	聖　霊	長岡幸一神父
6月17日	聖パウロ宣教師	九里彰神父
7月15日	カルメル山の聖母マリア	九里彰神父
9月23日	十字架の神秘	新井延和神父
10月14日	完徳の道	渡辺幹夫神父
11月　4日	聖なる冒険	Sr,パウリン
12月　9日	暗　夜	九里彰神父

3.待降節黙想（午後5時～午後4時）

12月5日（土）～6日（日）　九里彰神父

4.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）

9月30日（水）～10月1日（木）　伊従信子師

5.一般信徒のための黙想（午後5時～午前9時）　※修道者も参加可

4月29日（水）～　5月2日（土）　渡辺幹夫神父

京　都

6.召命黙想会（午後４時～午後５時）対象：４０歳以下の青年男女

5月5日（火）～　5月6日（水）　　渡辺幹夫神父

7.奉献生活者のための黙想（午後５時～午前９時）

8月　2日（日）～8月１１日（火）　　渡辺幹夫神父

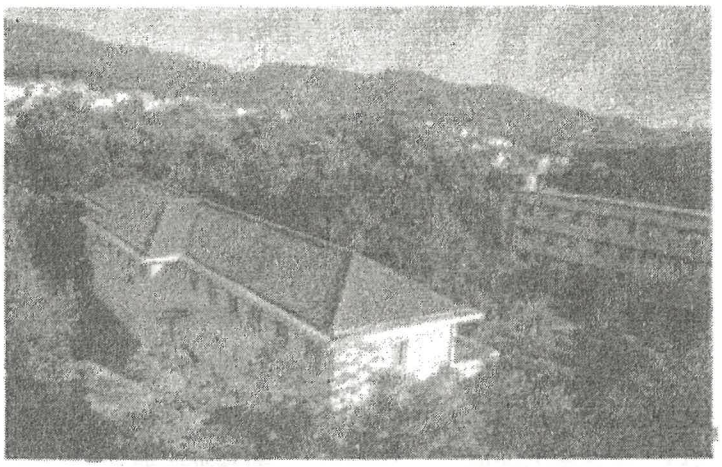
8月１８日（火）～8月２７日（木）　　九里彰神父

１０月１７日（土）～１０月２６日（月）　　九里彰神父

１２月２６日（土）～１月４日（月）　　新井延和神父

8.青年のための黙想会・男女　（午前１０時～午後５時）

１１月8日（日）　　九里彰神父



写真：宇治黙想の家

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

＊申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL　0774-32-7016
FAX　0774-32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（２００９）

この会は、現代の忙しい社会の中にあって、また都会の中にあって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ２８：２０）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみてはいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『闇に輝く希望の光』としました。このテーマを通して、“生きる負担、不安、苦しみ、病、老い、死の恐れ、悩み、痛み”などなど一見“ネガティーブ”（闇）と思われる出来事の中にも、主と出会う道筋が隠され、希望の光を静かに放っているはずです。この闇と思われる現実をもう一度眺め直し、希望のうちに生きていくヒントを探し求めて、一日静修において黙想し、祈りを深める事ができたらと願っています。

第１回	~~1月31日（土）~~	イエス・キリストの幸い宣言	松田浩一神父　（上野毛修道院）
第2回	~~2月21日（土）~~	私は弱いときにこそ強い！～弱さの中の光～	中川博道神父　（上野毛修道院）
第3回	~~3月28日（土）~~	暗夜における信仰・希望・愛　十字架の聖ヨハネ	九里彰神父　（宇治修道院）
第4回	4月18日（土）	喜びを生きる	新井延和神父　（宇治修道院）
第5回	5月23日（土）	聖霊に満たされて生きる	今泉健神父　（上野毛修道院）
第6回	6月20日（土）	苦しみの中における喜びと平安　三位一体のエリザベット	九里彰神父　（宇治修道院）
第7回	7月11日（土）	苦しみの中の祈り	今泉健神父　（上野毛修道院）
第8回	9月21日（月）祝	幼いイエスの聖テレーズの悲しみ	新井延和神父　（宇治修道院）
第9回	10月17日（土）	アヴィラの聖テレジアの霊性からの自由と希望	Sr.ベアトリス（宣教カルメル修院）
第10回	11月28日（土）	暗夜に輝く神のみ言葉：恵まれた方、聖マリア	松田浩一神父　（上野毛修道院）

＊　時間　AM10:00～PM4：00
＊　場所　カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分　＊聖テレジア幼稚園隣接
＊　参加費　1,000円
＊　持ってくるもの　聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
＊　定員　約30名
＊　プログラム　１０：００～ 祈り・導入・黙想
１０：４０～　講話【1】
１２：００～　昼食
１３：００～　赦しの秘跡または短い面接
１３：３０～　講話【2】
１４：４５～　ミサ
１５：３０～　茶話会
１６：００　終了

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆　名古屋カルメル霊性センター
〒456－0062　名古屋市熱田区大宝4－5－17　カルメル会日比野修道院　FAX 052-671-1825
一日静修係　〒465－0058名古屋市名東区貴船3－2115　小林　厚・晃子　TEL052-701-3685

名古屋

２００９年度名古屋聖書深読会

第１回	５月１６日（土）	日比野カトリック教会	新井延和神父
第２回	１０月　３日（土）	日比野カトリック教会	新井延和神父

＊ 参加費　￥１０００

＊ 持ち物　聖書・ノート・筆記具・昼食等

＊　毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

＊　原則として、定員は２１名とし、申し込みは、１週間前にFaxまたはハガキでお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

＊　対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞　申し込みは、下記の住所へハガキまたはFAXで、お願いします。

名古屋カルメル霊性センター
〒456-0062　名古屋市熱田区大宝４－５－１７
カルメル会日比野修道院
FAX０５２－６７１－１８２５
または
〒465-0058　名古屋市名東区貴船３－２１１５
小　林　　厚・晃　子
TEL/FAX０５２－７０１－３６８５

聖書深読センターのご案内

1　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

2　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。

講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月18,900円（4、7、10、１月に納入）　継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号　朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。.

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒパウリーナまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒパウリーナ

ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543

Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」NO331（2008年冬号）「今日の霊性」

聖霊の光のもとに　ー教父たちの教えと生き方（12）　…高橋正行
マリアの旅（2）—マリアと共に聴く　…中川博道
十字架のヨハネ講話（13）　…フェデリコ・ルイス
今日の歌（2）　…ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット（8）　…伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入ったいきさつ」（3）　…須沢かおり
「小さい道」の巡礼者（3）
テレーズの修練者—三位一体のマリー　…中山眞里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師（23）　…伊従信子
現代に生きる「預言者」のこころ　…谷口正子
愛の断章（10）　…奥村一郎

雑誌「カルメル」NO332（2009年春号）「今日の霊性」

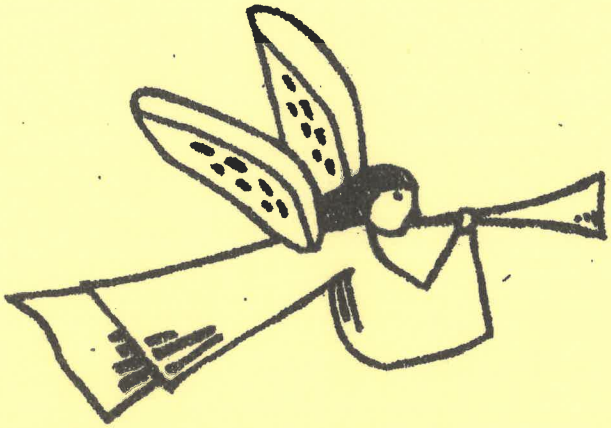
「馬屋」の霊性（1）　…高橋正行
マリアの旅（3）—外へ出ていく旅、内なる神秘に向かう旅（1）　…中川博道
「ザアカイの回心」　…九里　彰
今日の歌（3）　…ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット（9）　…伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入ったいきさつ」（4）…須沢かおり
「小さい道」の巡礼者（4）
テレーズの修練者—三位一体のマリー　…中山眞里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師（24）　…伊従信子
許し、許されるということ　…森　みさ
愛の断章（11）　…奥村一郎

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号＋特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会

（お問い合わせは、事務担当竹田まで。ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６）

諸所の企画案内



心のいほり

真命山霊性交流センター

リーゼンフーバー神父・キリスト教講座

ノートルダム教育修道女会

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム・ド・ヴィ

聞所の立面案内

心の山居の

真命山霊性交流センター

レーゲンスブルク神父・キリスト教講座

ノートルダム教育修道女会

コンサルタント・F・ノートルダム

ノートルダム・F・ウィ

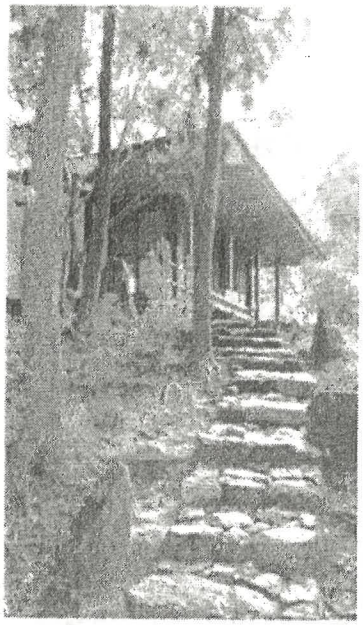
内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。
◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。
◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせて下さい。電話では取次いでおりません。
　申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了お願いします。
◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町３－２７「心のいほり　内観瞑想センター」
藤原神父　FAX　072・802・5026
http://www.com-unity.co.jp/naikan
予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★2009年度★

了	P1	09・01・10（土）2時から	01・16（金）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
了	K1	09・01・28（水）2時から	02・03（火）2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	Y1	09・02・18（水）2時から	02・24（火）2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
了	K2	09・03・04（水）2時から	03・10（火）2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	P2	09・03・21（土）2時から	03・27（金）2時から	兵庫・売布・女子ご受難会
	F1	09・04・25（土）2時から	05・01（金）2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	I1	09・05・08（金）2時から	05・14（木）10時まで	沖縄伊江島・土の宿
	M1	09・05・22（金）2時から	05・28（木）2時まで	盛岡・白百合
	K3	09・06・08（月）2時から	06・14（日）2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N1	09・06・24（水）2時から	06・30（火）2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	F2	09・07・10（金）2時から	07・16（木）2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	Y2	09・07・22（水）2時から	07・28（火）2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	O1	09・08・23（日）2時から	08・29（土）2時まで	長野・大鹿村・草々庵
	P3	09・09・12（土）2時から	09・18（金）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	Y3	09・10・07（水）2時から	10・13（火）2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	K4	09・10・21（水）2時から	10・27（火）2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N2	09・11・02（月）2時から	11・08（日）2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	F3	09・11・16（月）2時から	11・22（日）2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	P4	09・11・28（土）2時から	12・04（金）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K5	09・12・09（水）2時から	12・15（火）2時まで	東京・小金井・聖霊会

2009年度祈りの集いのご案内
聖パウロの年



通年のテーマ：
聖パウロについて　レクツィオ　ディヴィーナ

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

了　1月　8日　聖パウロの改心（使徒言行録9:1…）

了　2月12日　聖パウロの宣教派遣（使徒言行録13:1…）

了　3月12日　聖パウロの宣教における苦難（2コリント4:7…）

4月23日　聖パウロのアテネにおける宣教（使徒言行録17:16…）

5月14日　聖パウロのコリントにおける宣教(使徒言行録18:1…)

6月11日　聖パウロの旅

7月　9日　キリストの使徒であるパウロ

9月10日　聖パウロの書簡　1

10月 8日　聖パウロの書簡　2

11月19日　聖パウロの逮捕（使徒言行録21:27…）

12月10日　聖パウロの殉教

指導者：フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）
園田　善昭神父
ダニエレ　サルツィ・サルトリ神父
マリア　デ・ジョウルジ　シスター

申し込み先
〒 865-0133
熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）

リーゼンフーバー講座・集い案内　　2008～2009年

●キリスト教入門講座

金曜日　18時45分～20時30分　聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分　聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。　キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー　下記の土曜日　９時３０分～１１時、また１１時１５分～１２時４５分、岐部ホール４階４０４、２つの講座・セミナーでキリスト教関係の思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してＨＰ（文末）を見よ。
４月１８日、２５日、５月９日、１６日、２３日、３０日

●坐禅会　月曜日　17時20分～20時10分　木曜日　18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。祝日を除く。3回坐り、間に講話があります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可

●接　心（秋川神冥窟）　４月２８日（火）２０時３０分～５月５日（火）１３時
一泊２４００円程度　６月２６日（金）２０時３０分～２８日（日）１３時
（宝塚市）　６月２０日（土）１３時～２１日（日）１６時

●ミ　サ　水曜日　17時10分～18時　上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。（但し、８月全休、祝日休）

●祈りの集い　下記の土曜日　13時30分～16時　上智大学内SJハウス第5会議室
黙想、講話、ミサがあります。~~3月14日~~、4月25日、5月23日、6月13日
ロザリオの祈り　同日16時10分～50分　クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙　想　【会社帰りの黙想】　毎月第2・第4火曜日　18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。（但し祝日、８月１１日は休）
８月２５日は、上智大学クルトゥルハイム聖堂。
１２月２５日（金）はクリスマスの黙想（予定）。

【お昼の黙想】毎月第１・３火曜日　１０時４０分～１１時５５分　聖イグナチオ教会
但し祝日休、８月４日休。８月１８日クルトゥルハイム聖堂（上智大学）

【水曜日】　18 時～18 時 30 分　上智大学内クルトゥルハイム１階右小聖堂、
どなたでも（但し、8 月全休、祝日休）
【通う霊操】　8 月 22 日（土）～30 日（日）　18 時～20 時 45 分
上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●黙想会　６月６日（土）１０時～７日（日）１５時、９月１２日（土）１０時～１３日（日）１５時（東村山）

●アガペ会　下記の日、説明会（１３時３０分）と集い、ミサ（１４～１８時）。
上智大学内 SJ ハウス第５会議室、４月１９日（日）、６月１４日（日）

●クリスマス会　１２月１９日（土）１６時３０分　聖イグナチオ教会マリア聖堂、１８時
岐部ホール（予定）。要申し込み。
クリスマスのミサ　１２月２３日（水）１４時～　上智大学内クルトゥルハイム聖堂

※詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認下さい。

問い合わせ・連絡先　クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部哲学科教授）
102-8571　東京都千代田区紀尾井町 7－1　上智大学 S.J. ハウス
電話　03－3238－5124[直通]、5111[伝言]、FAX　03－3238－5056
http：//www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html

リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2009 年～2010 年

日　時　　毎週金曜日　18 時 45 分～20 時 30 分

●４／　３　　信仰の道―人生の意味を問う
●４／１０　　休み
●４／１２　　復活祭のミサ（１４時、上智大学内クルトゥルハイム２階）
●４／１７　　人生の道しるべ―聖書に信仰を求める理性
●４／２４　　聖書の人間像―人間の現状と使命
●５／　１　　休み

リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2009 年～2010 年

日　時　　第１・３・５火曜日　18 時 45 分～20 時 30 分

●４／　７　　「倫理の基礎づけ」　人間の尊厳―自律と自己超越
●４／１２　　復活祭のミサ（14 時、上智大学内クルトゥルハイム 2 階）
●４／２１　　人生の目標―神の「似姿」としての真なる人間
●５／１９　　人間以外のものの意義―世界の使用と聖化

《場所・お問い合わせ》

場　所　　聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館３階
　　アルペホール

電　話　　０３－３２６３－４５８４

「土曜アカデミー」開講

お知らせとお招き

人生の意義と世界の根拠を理解することは、久しい以前から人間の思惟が根本的な目標としてきたことであり、同時に文化の発展の原動力でもあり続けている。キリスト教がおよそ 2000 年前に成立して以来、信仰と理性は互いに問いかけながら世界・人間・超越的神秘の認識に迫ろうとして歩んできた。緊張をはらんだこの対話はキリスト教思想史において豊かな実りを結んだが、21 世紀で開かれた新しい世界的状況においてこそ、卓越した重要性を持つようになると思われる。その際、信仰と理性、キリスト教の思想史と現代的な問題意識、古典的・現代的哲学と神学との諸側面を併せて理解することから、現代の困難な状況においてキリスト教信仰を生きるための新しい道しるべが期待できるのではないだろうか。

この期待に基づいてキリスト教と人間の思惟が出会える場として、今回「土曜アカデミー」が設けられた。本講座は、キリスト教—その思想的遺産と現代的理解—に関心があり、問題を歴史的かつ体系的に考える意欲を持たれる方のどなたにも、信仰、宗派、宗教を問わず開かれている。

受講に思想史・神学・哲学に関する予備知識は前提とされないが、聖書・キリスト教に関する知識が基盤となる。講座は無料であり、定期的な参加が望ましい。

2009 年度前半のプログラムに関しては、裏面を参照。

場所：岐部ホール 4F 404（カトリック麹町聖イグナチオ教会敷地内、JR,東京メトロ四ツ谷駅から徒歩 2 分程度）

時間：土曜日午前 9 時 30 分から 12 時 30 分まで

9 時 30 分-10 時 30 分	1. 思想史コース（和訳に基づく原典研究含む）
10 時 40 分-12 時	2. 体系的コース
12 時-12 時 30 分	セミナー形式での意見交換

講師のプロフィール

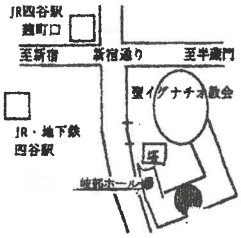
1938 年	ドイツに生まれる
1958 年	イエズス会入会
1967 年	ミュンヘン大学卒業
	哲学博士、同年来日
1971 年	司祭叙階
1989 年	神学博士
現在	上智大学名誉教授
	元放送大学客員教授

講師と連絡先：K. リーゼンフーバー

〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町 7－1 上智大学内 S.J.ハウス

電話:03-3238-5124(直通),5111(伝言);FAX:03-3238-5056

http://www.jesuits.or.jp/~j.riesenhube/index.html



2009年度のテーマ:「信仰と理性」

1. 思想史コース

夏学期: 古代・中世思想を中心にして

4/18　問題提起: 聖書における発端: 創造と救済史
4/25　2世紀: 護教家: 信仰とギリシャ哲学の接点
5/9　3世紀: 信仰と文化(クレメンス)/ 信仰の学問的体系(オリゲネス)
5/16　2-5世紀: 創造論と三位一体論の哲学的理解の問題
5/23　400年頃: 思惟を通しての信仰への道(アウグスティヌス)
5/30　400年頃: 懐疑主義の克服と認識の基礎づけ(アウグスティヌス)
6/13　500年頃: 理性の限界と超越(ディオニュシオス)
7/4　11世紀: 理解を求める信仰(アンセルムス)
7/11　12世紀: 論理か愛か(アベラルドゥス対ベルナルドゥス)
7/25　13世紀: 神学の哲学的大全(トマス・アクィナス)
9/5　14世紀: 神秘主義か経験主義か(エックハルト/オッカム)
9/19　15世紀: 知ある無知(クザーヌス)

*冬学期(10月3日-2010年1月30日): 近代・現代思想を中心にして

2. 体系的コース

夏学期: 哲学とその歴史を通して見た超越との関係

4/18　問題提起: 神認識の可能性と限界; 神話・哲学・信仰
4/25　世界の秩序(コスモス)と理性(ロゴス); (ヘラクレイトスからストアへ)
5/9　存在の諸段階と第一の善(プラトン)
5/16　自然世界を動かす根源: 完全現実態(アリストテレス)
5/23　無限への追求: 美と一者(プロティノス)
5/30　理性に輝く真理そのもの(アウグスティヌス)
6/13　顕わと隠蔽: 神認識における肯定と否定
7/4　理性の最高に可能な対象(アンセルムス)
7/11　神への道の諸段階(ボナヴェントゥラ)
7/25　存在自体である神の認識(トマス・アクィナス)
9/5　魂の根底における一なる存在への接触(エックハルト)
9/19　理性の反省と突破による神への開き(クザーヌス)

*冬学期(10月3日-2010年1月30日): 神認識の近代・現代的アプローチ

ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院

◎ 所 在 地：　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　1丁目　3－1

Tel：　077-579-7580

Fax：　077-579-3804

E-メール：　karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交　通：　JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。

琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日　程：

A.　8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

了 ①　08年12月27日（土）～ 09年1月　4日（日）

了 ②　09年　2月20日（金）～　2月28日（土）

③　7月23日（木）～　7月31日（金）

④　9月　1日（火）～　9月 9日（水）

⑤　10月17日（土）～　10月25日（日）

⑥　12月27日（日）～ 10年1月 4日（月）

B.　祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

了 ⑦　1月16日（金）～　1月18日（日）

了 ⑧　2月　6日（金）～　2月 8日（日）

了 ⑨　2月20日（金）～　2月22日（日）

⑩　4月　3日（金）～　4月 5日（日）

⑪　4月24日（金）～　4月26日（日）

⑫　5月　8日（金）～ 5月10日（日）

⑬　6月12日（金）～ 6月14日（日）

⑭　6月26日（金）～ 6月28日（日）

⑮　10月　2日（金）～ 10月 4日（日）

⑯　10月23日（金）～　10月25日（日）

⑰　11月　6日（金）～ 11月　8日（日）

⑱　12月　4日（金）～ 12月　6日（日）

⑲　12月 11日（金）～ 12月 13日（日）

この期間、黙想会が行われている場合があります。

C.　研修と祈り：　【自己の成長と祈りへの道】

(20)　5月 19日（火）～　5月 24日（日）

(21)　9月 29日（火）～ 10月 4日（日）

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D.　講話　黙想

(22)　5月 27日(水)～6月 3日(水)　九里　彰 師（ｶﾙﾒﾙ会）

◎　対　象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎　霊的同伴者：　ﾄﾆｰ・ﾌﾞﾛﾄﾞﾆｬｯｸ（ﾒﾘﾉｰﾙ宣教師）　安井 昌子（ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女）

菊池 陽子（ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女）　松本 佳子（ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女）

◎　申込み：　1) 名前　2) 住所　3) 電話番号　4) 希望日程(番号) を書いて

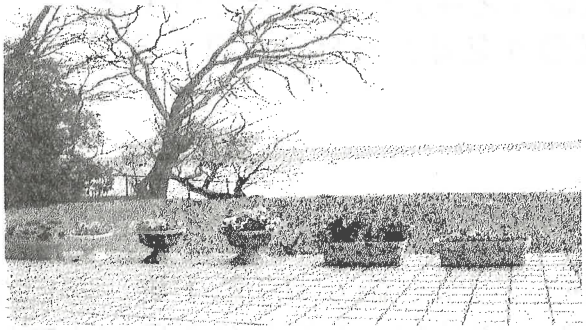
郵送、または、Fax で「黙想係」安井昌子　へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。　先着順 15名です。

◎　その他：　受付(ﾁｪｯｸ・ｲﾝ)は、いずれの場合も、初日の 15時から 16時 45分まで。

問い合わせは、 電 話　または、E-ﾒｰﾙを　ご利用ください。



食堂より琵琶湖を望む

【一日黙想会のご案内】

テーマ： みことばを味わい、みことばを生きる

指　　導：幸田　和生司教様

日　　時：5月23日（土）10：00～16：00
　　受付　9：30～

場　　所：コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

対　　象：男女信徒・求道者（年齢を問わず）

持　ち　物：　筆記用具
　　（できるだけ「旧・新約聖書」もご持参下さい）

会　　費：2，000円（お弁当代含む）

申し込み：5月16日（土）まで。
　　電話（0424）－82－2012
　　FAX（0424）－82－2163

定　員：80名

※　当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。南口から徒歩で20分。タクシーで5分。下石原3丁目マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

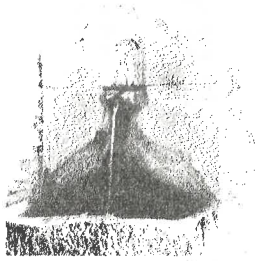
カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。
カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2009年4月4日(土)

＊ 次回の予定　２００９年5月１６日（土）＊

講話　　伊従信子

午後２時　～　午後５時３０分位まで
講話・祈り・分かち合い
参加費　　２００円



お申し込み・問い合わせ
ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.com

カルメル会の霊性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

奥村一郎選集（全９巻）
刊行完結

奥村一郎 *Okumura Ichiro* ●カルメル会司祭
１９２３年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

四旬節講話（Ｐ１９）でも、ご紹介しています。

四六版・上製・平均２４０頁　　各巻定価　２，１００円
（オリエンス宗教研究所）

奥村一郎選集 全9巻の構成

第1巻　慈悲と隣人愛
（解説）西村惠信

第2巻　多文化に生きる宗教
（解説）橋本裕明

第3巻　日本の神学を求めて
（解説）小野寺功

第4巻　日本語とキリスト教
（解説）阿部仲麻呂

第5巻　現代人と宗教
（解説）鶴岡賀雄

第6巻　永遠のいのち
（解説）八木誠一

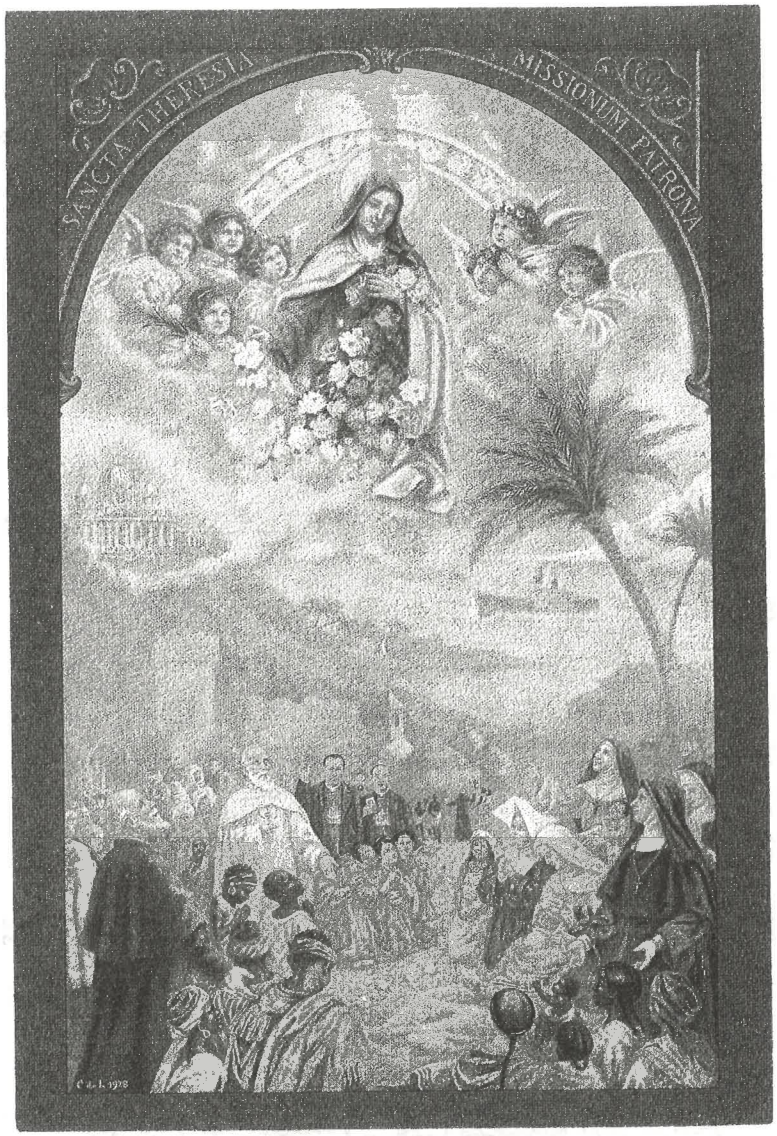
第7巻　カルメルの霊性
（解説）高園泰子

第8巻　神に向かう〈祈り〉
（解説）高橋重幸

第9巻　奉献の道
（解説）宮本久雄

リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

記念御絵



＊ ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

A. 6cm×10.5cm　　(¥30)

B. ハガキ　　(¥100)

C. 25.5cm×30.5cm　　(¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAX にてサイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03－3704－1764

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」
仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをＢ５で２枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われます。

》投稿規程《

＊ 締切り：原則的に毎月１０まで
＊ 原稿サイズ：Ｂ５　左右の余白２０ｍｍ
＊ 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
＊ E-mail での投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp 宛にお願いいたします。
＊ 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
＊ 「諸所の企画」のコーナーについては、
　① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
　② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
　③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
　④ 連絡先等。

＊ 寄稿連絡は、九里（くのり）　彰神父宛にお願いいたします。**¡住所が変わります!**

〒611－0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12　カルメル会修道院
Tel (0774) 32－7456　Fax (0774) 32－7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOO で「カルメル霊性センター」を検索してください！

ホームページのアドレスは以下の通りです。
http://www4.ocn.ne.jp./~carmel

『霊性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×２２０円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

編集後記

４月はすべてが新しく始まる季節である。それまで死んでいたかのような野山に、新芽が吹き出し、色とりどりの花が咲き乱れる。また入園式や入学式や入社式などが行われ、幼稚園や学校や会社では、新しい年度が始まる。

「人生はやり直しがきかない」ということは真実だが、めぐりくる季節は、私たちがいくつになろうとも、人間として新たに生まれ変わることを保証してくれているかのようだ。使徒パウロはこう言っている。

割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。(ガラ 6:15)

キリスト者として、割礼の代わりに、洗礼という言葉を入れることはできないが、私たちの生き方そのものが問われていることに変わりはない。

だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。(エフェ 4:22f.)

（Ｐ．九里）

あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「5月号」製本日　　4月28日（火）　　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係
TEL　03・3704・2171